

2019年3月期 第2四半期決算概要



日進工具株式会社

2018年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2019年3月期2Qの業績	P. 3	・・・	第2四半期決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	四半期業績推移
<hr/>			
2. 2019年3月期の業績見通し	P.14	・・・	業績見通し
	P.15	・・・	上期実績と下期予想
	P.16	・・・	配当予想
<hr/>			
< 参考資料 >	P.18	・・・	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.19	・・・	投資指標
	P.20	・・・	株価推移とバリュエーション
	P.21	・・・	I R 情報サイトのご案内

2019年3月期
第2四半期の業績



第2四半期決算の概要

前年同期比11.9%増収、18.1%増益（経常）とほぼ計画通り

（百万円）

	2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計	通期予想	進捗率
売上高	4,687 (+6.0%)	5,247 (+11.9%)	10,520 (+7.7%)	49.9%
営業利益	1,226 (+10.5%)	1,462 (+19.3%)	2,750 (+2.0%)	53.2%
経常利益	1,242 (+11.0%)	1,467 (+18.1%)	2,780 (+1.7%)	52.8%
四半期純利益	907 (+20.8%)	972 (+7.2%)	1,910 (+0.3%)	50.9%

()内は前年同期比増減率

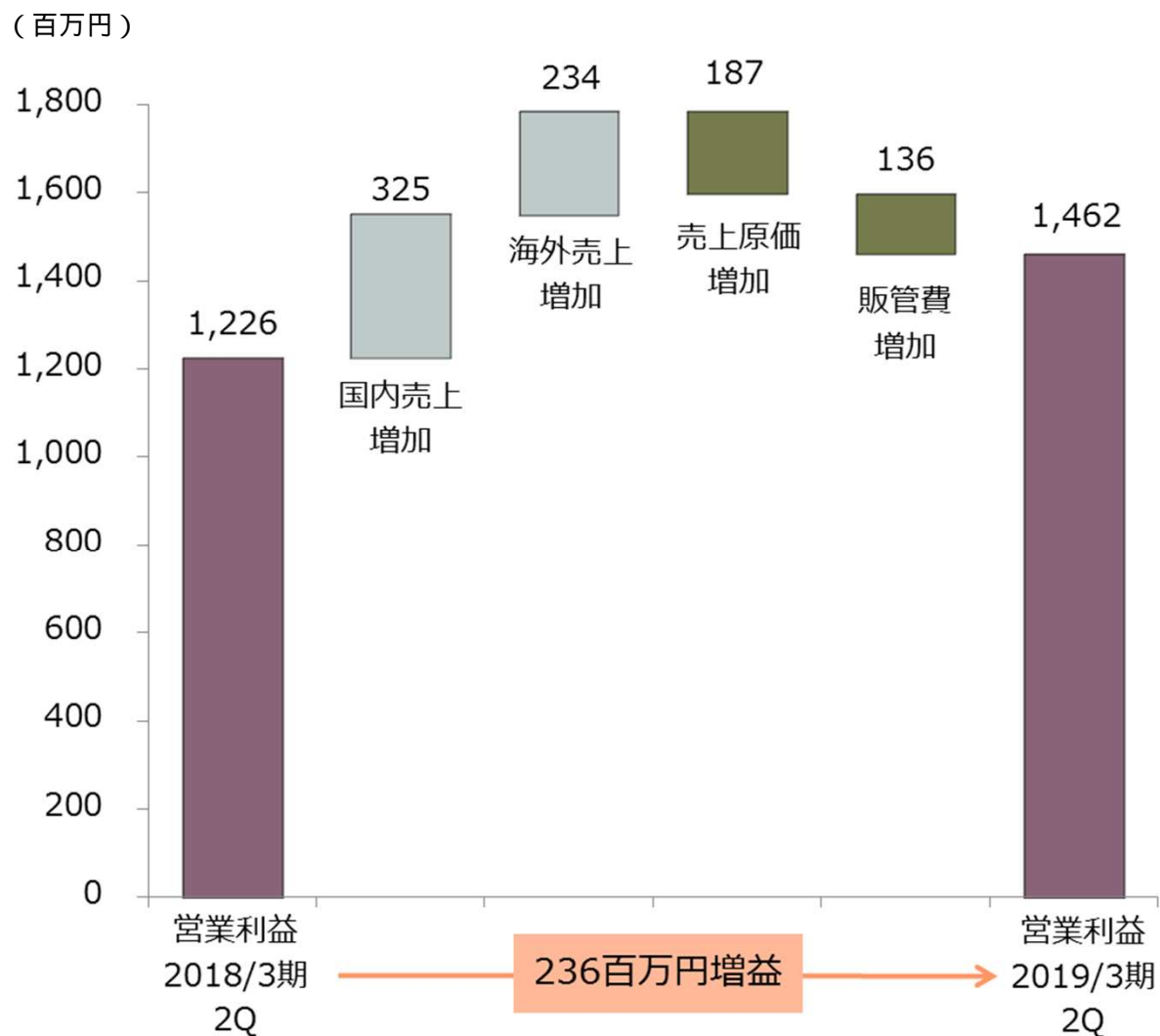
工具需要は、夏場以降ややペースが落ちたものの概ね順調に推移し、上期の連結売上高は前年同期比11.9%増の5,247百万円。計画に対しては99.4%と僅かながら届かなかった。なお、通期計画に対する進捗率は49.9%。

同連結経常利益は前年同期比18.1%増の1,467百万円。計画を1.9%上回った。通期計画に対する進捗率は52.8%と売上高のそれを上回った。

売上高経常利益率は28.0%、前年同期の26.5%から1.5ポイント上昇。

なお、前年同期は特別損益が受取保険金等により86百万円のプラス、当期は12百万円のマイナスであった。

営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期に比べ325百万円（9.3％）の増加、海外売上高も同234百万円（19.4％）増加し、売上高全体では前年同期比11.9％増の5,247百万円と半期ベースでの過去最高を更新。

560百万円の売上高増加に対して、売上原価は187百万円の増加に止まり、売上高総利益率は57.6％と前年同期に比べ1.1ポイント上昇。

販管費は展示会の数が増えたため、展示会費が増加したほか、株式報酬費用の計上等もあり136百万円増加した。

営業利益は1,462百万円で、前年同期比236百万円、19.3％の増加。売上高営業利益率は同1.7ポイント上昇の27.9％であった。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2018年3月期 2Q累計	2019年3月期 2Q累計	前年同期比
売上高	4,687	5,247	+11.9%
売上総利益 (率)	2,648 (56.5%)	3,021 (57.6%)	+14.1%
販管費 (率)	1,421 (30.3%)	1,558 (29.7%)	+9.6%
営業利益 (率)	1,226 (26.2%)	1,462 (27.9%)	+19.3%
経常利益 (率)	1,242 (26.5%)	1,467 (28.0%)	+18.1%
四半期純利益 (率)	907 (19.4%)	972 (18.5%)	+7.2%
設備投資額	295	382	+29.5%
減価償却費	301	291	-3.4%
従業員数	329人	325人	-1.2%

()は売上高に対する比率

売上高は前年同期比11.9%増の5,247百万円と半期ベースでの過去最高を更新。

売上総利益も同14.1%増の3,021百万円と増加、売上総利益率は1.1ポイント上昇し57.6%。

販管費は、展示会費や人件費の増加等から同9.6%増加したが、売上高の拡大により販管費比率は29.7%と0.6ポイント低下。

営業利益は同19.3%増の1,462百万円。売上高営業利益率も1.7ポイント上昇し27.9%。

四半期純利益は7.2%の増加に止まったが、前年同期は、受取保険金等から特別損益が86百万円のプラスとなったことによる。(当期は固定資産の除却等から12百万円のマイナス)。

今期の設備投資予算は、今後の売上規模の拡大を見越して、機械設備の増設等を中心に通期で925百万円と例年に比べ多額としている。

従業員数は、退職者数が中途・新卒の採用者数を上回り4名減少。

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2018年 3月期	構成比	2019年 3月期2Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	9,702	67.1%	9,720	66.6%	+0.2%
現金及び預金	6,325	43.7%	6,203	42.5%	-1.9%
受取手形及び売掛金	1,508	10.4%	1,564	10.7%	+3.7%
棚卸資産	1,745	12.1%	1,853	12.7%	+6.2%
固定資産	4,764	32.9%	4,874	33.4%	+2.3%
有形固定資産	4,010	27.7%	4,054	27.8%	+1.1%
無形固定資産	156	1.1%	98	0.7%	-36.8%
投資その他の資産	598	4.1%	721	4.9%	+20.5%
資産合計	14,467	100.0%	14,595	100.0%	+0.9%
(負債の部)					
流動負債	1,961	13.6%	1,605	11.0%	-18.2%
買掛金	281	1.9%	287	2.0%	+2.2%
固定負債	503	3.5%	276	1.9%	-45.2%
負債合計	2,465	17.0%	1,881	12.9%	-23.7%
(純資産の部)					
自己資本合計	12,002	83.0%	12,649	86.7%	+5.4%
純資産合計	12,002	83.0%	12,713	87.1%	+5.9%
負債・純資産合計	14,467	100.0%	14,595	100.0%	+0.9%

流動資産は、法人税や賞与の支払いにより現預金が減少したものの、売上増に伴う売掛金の増加や在庫拡充による棚卸資産の増加から前年度末に比べ0.2%増加。

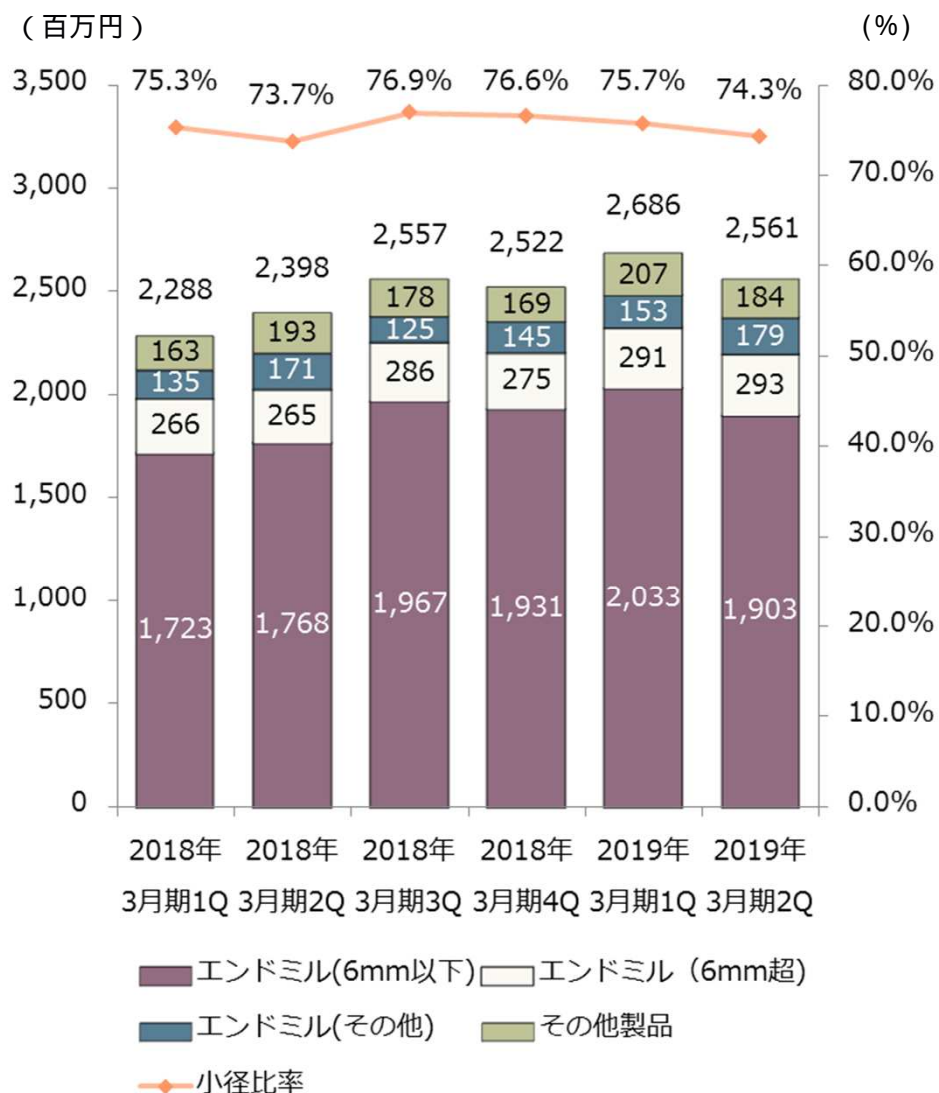
機械設備の導入や本社移転に伴う敷金等から有形固定資産や投資その他の資産が増加。ソフトウェア開発費の返金等により無形固定資産が減少したものの、固定資産合計は同2.3%増加。資産合計も同0.9%増加した。

流動負債は、賞与引当金や未払法人税等の支払いにより同18.2%減少。固定負債は、前会長の役員退職慰労金の支払い等から同45.2%減少。

純資産は同5.9%増加、自己資本比率は3.7ポイント上昇の86.7%。

四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移



自動車関連では、新車販売台数は前年同期に比べて横ばいであったものの、LEDライトの普及によるデザイン性の向上や運転支援システム関連部品の増加等から、工具需要は引き続き順調に推移。一方、電子部品・デバイス関連では、世界的なスマートフォン需要の一服や米中貿易摩擦の激化に対する懸念等から、夏場に向け増勢の鈍化がみられた。

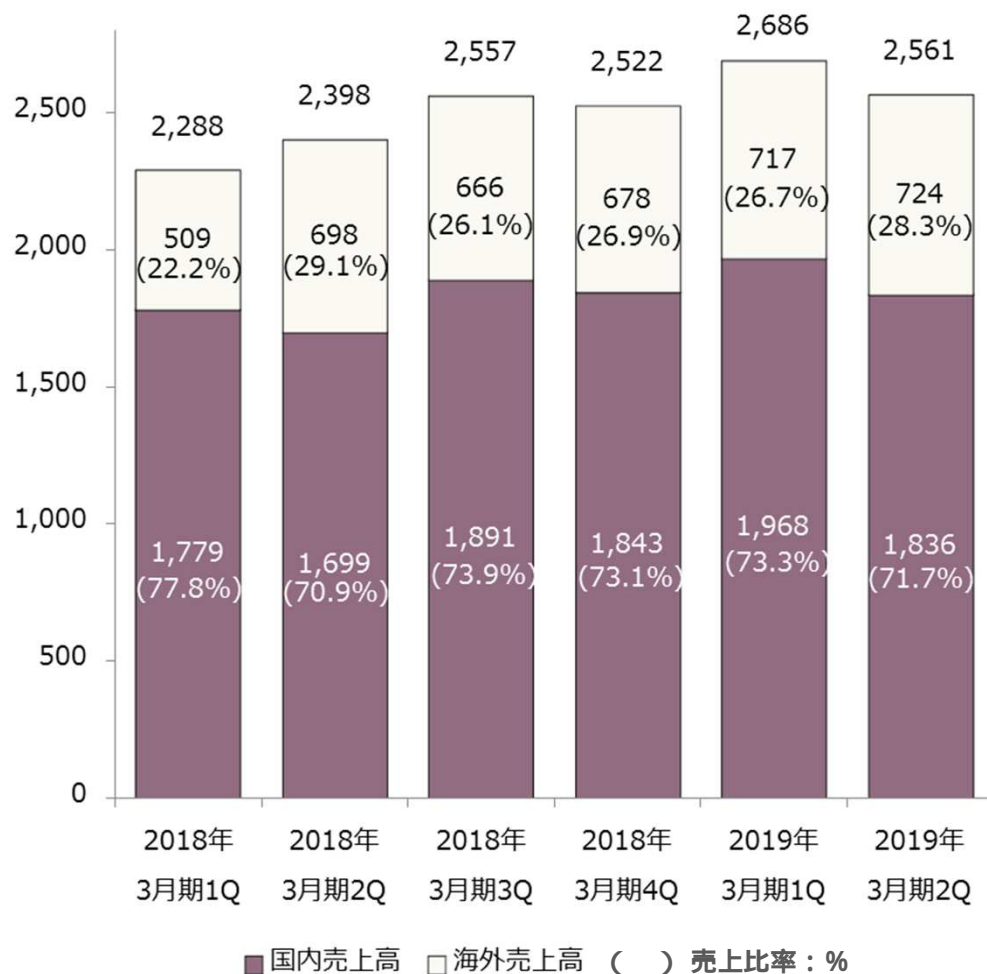
第2四半期における連結四半期売上高は2,561百万円となり、前年同期比では6.8%の増加であったが、スマホ関連向けが減速した影響もあり、前四半期比は4.7%の減少であった。

製品別では、主力のエンドミル（6mm以下）が1,903百万円と、上記の影響等から直近3四半期の水準を下回る一方、エンドミル（6mm超）やエンドミル（その他）は水準を維持したため、小径比率は74.3%とやや低下した。

四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

国内・海外売上高の推移

（百万円）



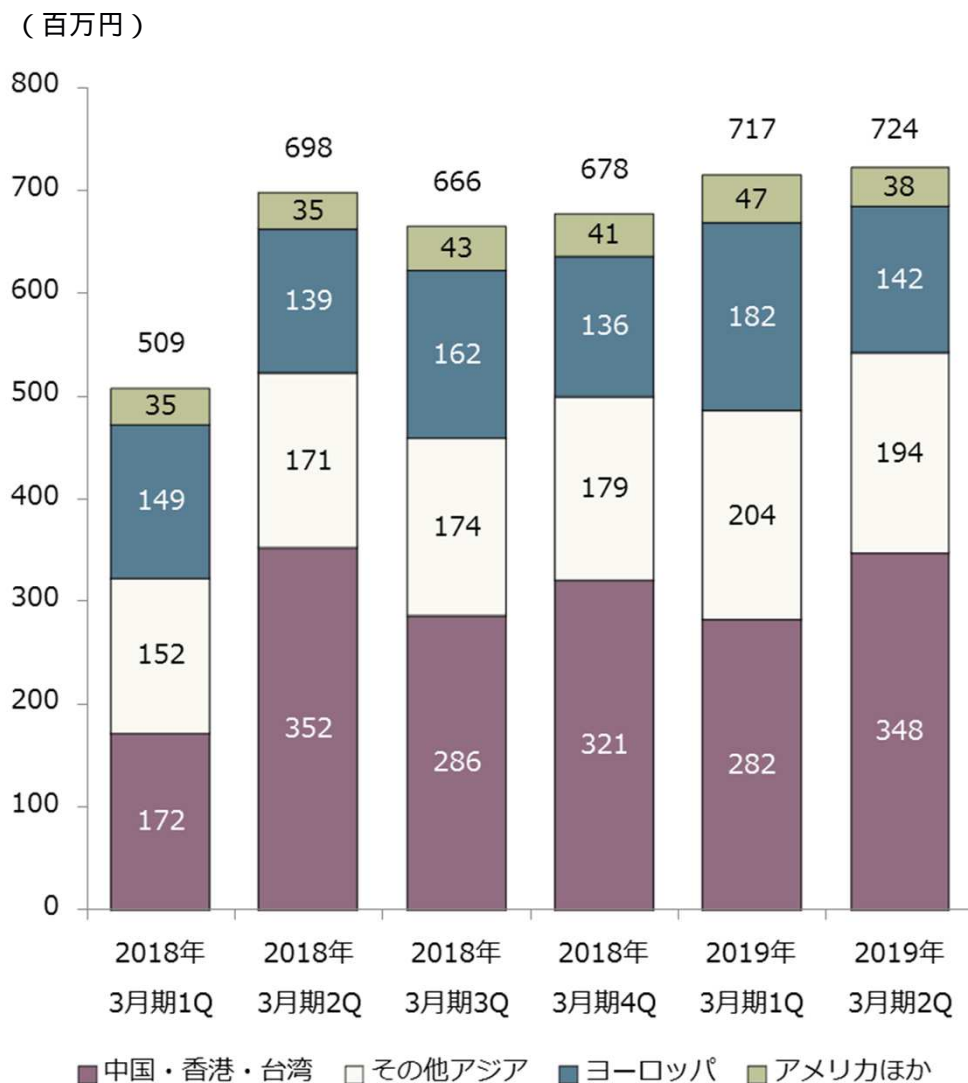
海外売上高は724百万円、前年同期比3.7%増、前四半期比0.9%増と四半期ベースの最高額を更新。

一方、国内売上高は1,836百万円、前年同期比では8.0%の増加となったが、前四半期比では6.7%の減少。

国内向け売上高が減少したこともあり、海外売上高比率は28.3%と直近3四半期の水準を上回った。

四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

海外地域別売上高の推移



第2四半期の海外売上高は724百万円と、僅かながら前四半期を上回り過去最高を更新。

アメリカほか向けは40百万円を割り込み、なかなか拡大が難しい状況。

欧州向けは142百万円で、四半期ごとに振れはあるものの、一定の水準は維持している状況。

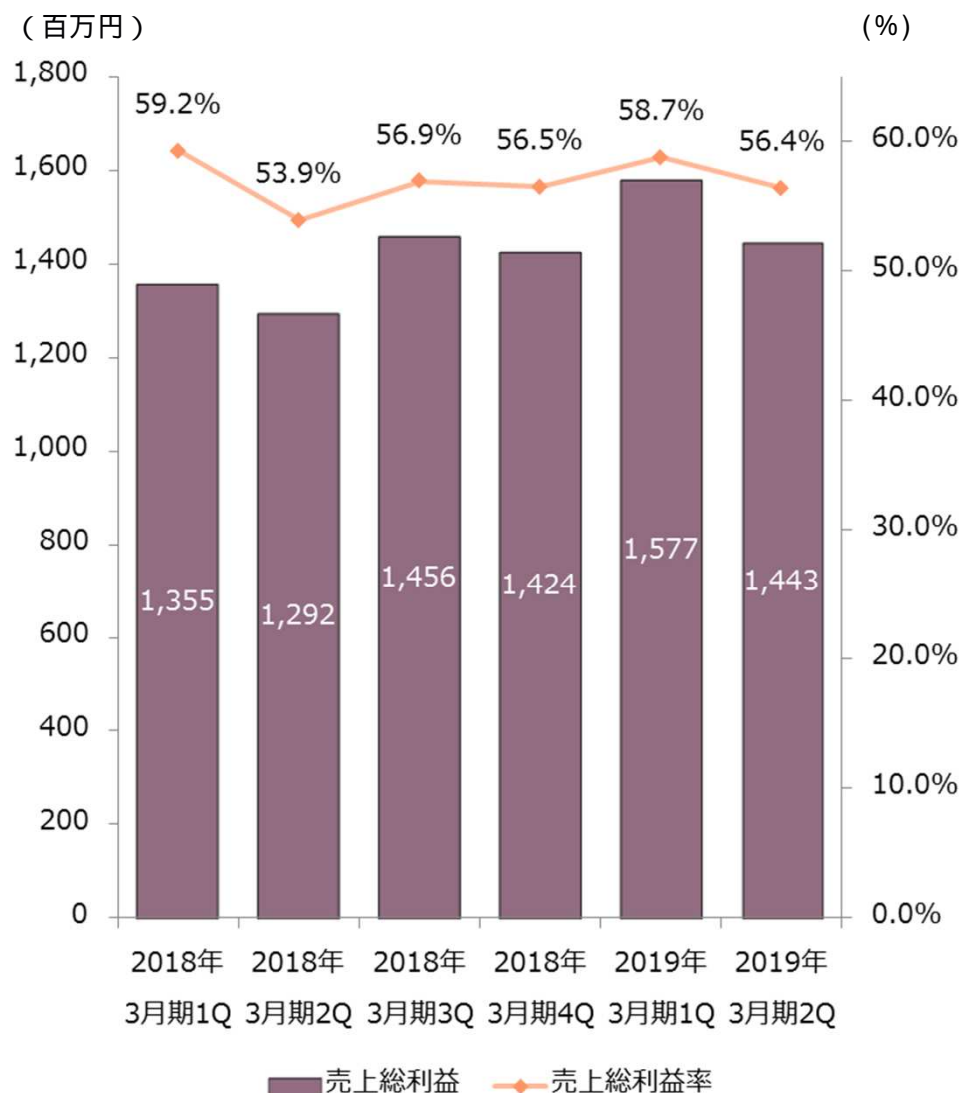
タイを中心としたその他アジアは194百万円と前四半期の水準は下回ったものの堅調を維持。

中国・香港・台湾向けは348百万円と高水準であったが、香港の販売子会社経由分は連結に当たり3ヶ月の遅れがあり、実際の7-9月の中国向けの状況としては増勢に鈍化がみられた。

（第2四半期は4月-6月の数値が連結対象）

四半期業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移

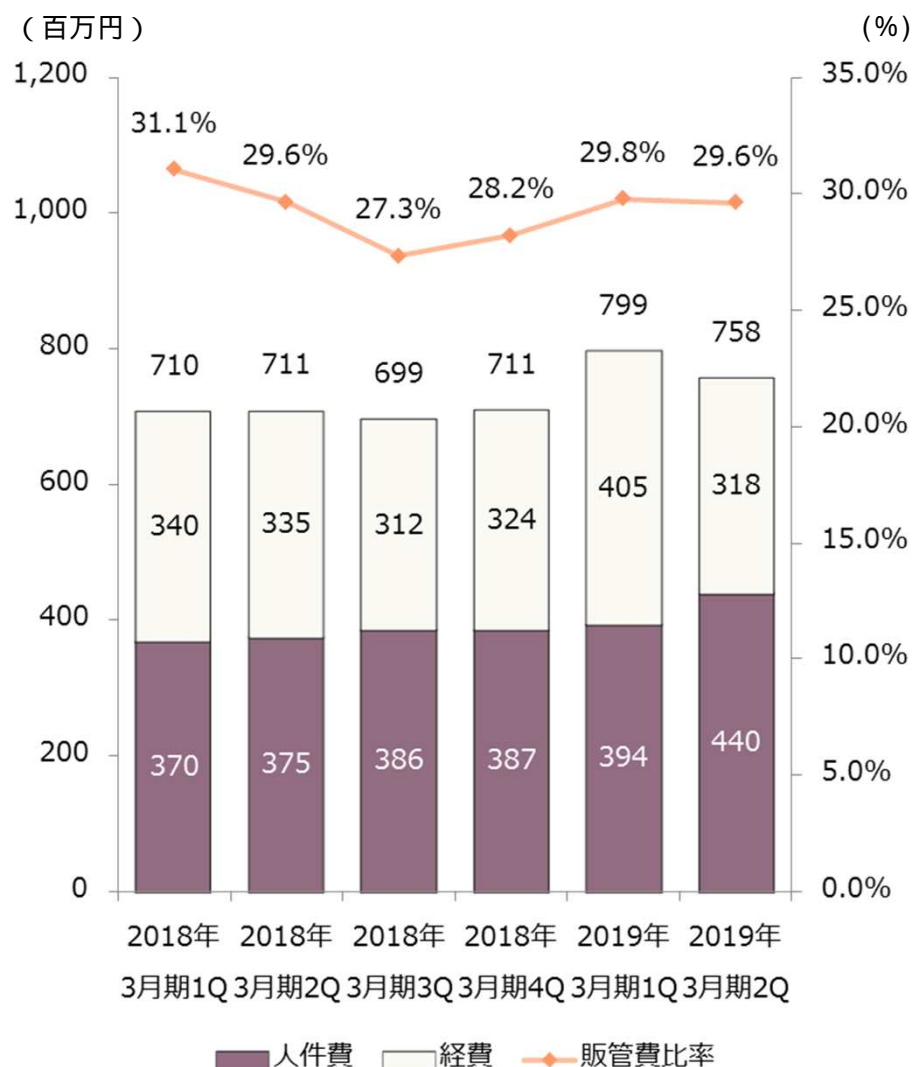


第2四半期における売上総利益は1,443百万円と前年同期比11.7%増加したものの、第1四半期に比べると8.5%の減少となった。

第1四半期に比べ売上高が4.7%減少したほか、夏季休暇による工場稼働率の低下もあり、売上総利益率は56.4%と前四半期比では2.3ポイント低下したが、前年同期に対しては2.5ポイント上昇した。

四半期業績推移（販管費の推移）

販管費と販管費比率の推移



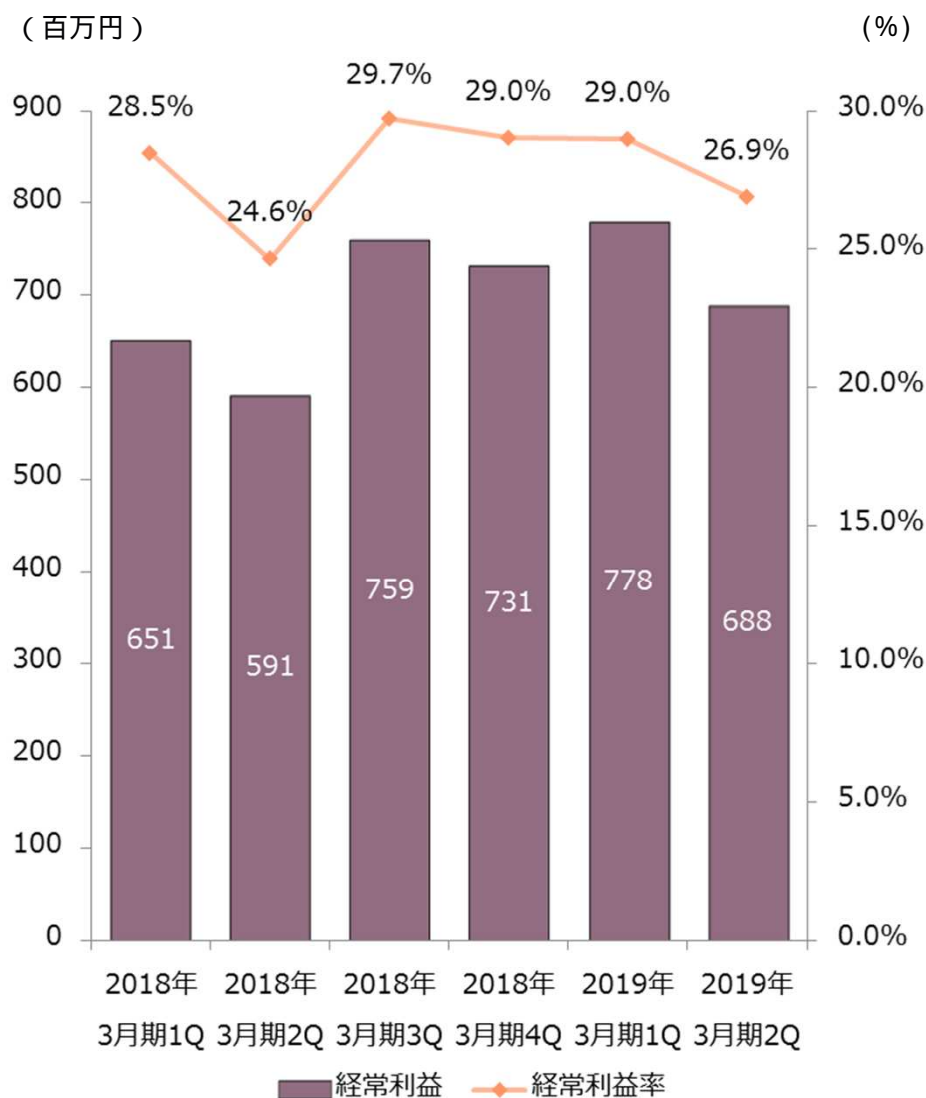
人件費は、今期より導入した株式報酬制度により、64百万円の株式報酬費用が発生したことを主因に増加。（株式報酬制度の導入により、役員退職慰労金制度を廃止。株式報酬費用は年1回計上。）

一般経費は、第1四半期には4件あった展示会出展が、第2四半期では米国シカゴでの「IMTS」1件であったこと等から318百万円となり、前期比・前年同期比ともに減少。

販管費全体では、前年同期比6.7%増の758百万円。売上高販管費比率は29.6%と横ばいの水準。

四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



経常利益は688百万円となり、前年同期比では16.5%の増加。売上高経常利益率も26.9%と2.3ポイント上昇した。

ただし、第1四半期と比べると89百万円、11.5%の減少。売上高経常利益率も2.1ポイント低下した。販管費は41百万円減少したものの、売上高の減少や夏季休暇による工場稼働率の低下等から、売上総利益が134百万円、8.5%減少したことによる。

2019年3月期の業績見通し



業績見通し

(百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	9,767	10,520	+7.7%	米政権の関税施策等が懸念されるものの、自動車の先進運転支援システムの拡大等もあり、小径工具需要は底堅く推移すると想定。
営業利益	2,695	2,750	+2.0%	原材料費の上昇が見込まれる他、隔年開催の展示会（JIMTOF）や総合カタログの改訂等による費用を見込む。
経常利益	2,733	2,780	+1.7%	同上
当期純利益	1,903	1,910	+0.3%	同上
設備投資額	663	925	+39.6%	販売・生産量の増加に対応するため、工具研削盤や測定器等の設備増強を図る。
減価償却費	625	675	+7.9%	機械設備の増強による上昇を見込む。
EPS	152.23円	152.76円	+0.3%	
1株当り配当金	45円	45円	0.0%	利益水準を横ばいと想定していることに加え、開発センター新設資金等を考慮し、年間配当45円を予定。

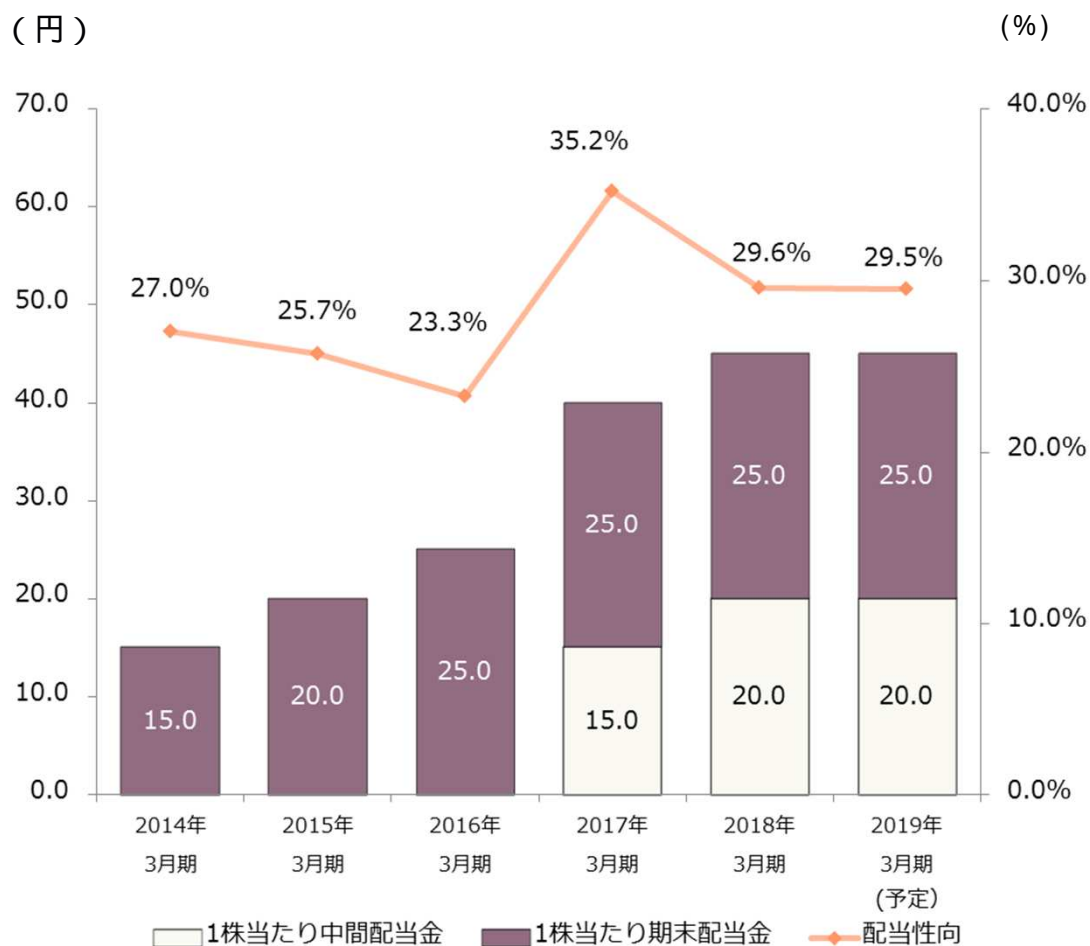
上期実績と下期予想

(百万円)

	上期実績	売上比	下期予想	売上比	通期予想	売上比
売上高	5,247 (+11.9%)	-	5,272 (+3.8%)	-	10,520 (+7.7%)	-
営業利益	1,462 (+19.3%)	27.9%	1,287 (-12.4%)	24.4%	2,750 (+2.0%)	26.1%
経常利益	1,467 (+18.1%)	28.0%	1,312 (-12.0%)	24.9%	2,780 (+1.7%)	26.4%
当期純利益	972 (+7.2%)	18.5%	937 (-5.9%)	17.8%	1,910 (+0.3%)	18.2%

()内は前年同期比増減率

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は45円
中間配当は20円
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
配当性向は29.6%
- 2019年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定
中間配当20円、期末配当25円
業績予想に対する配当性向は29.5%
利益水準を横ばいと想定していることに加え、
開発センター新設のための建設資金確保を考慮
- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された
1单元（100株）以上を保有する株主様を対象に
オリジナルクオカード1,000円分を贈呈

自社株買いではなく
配当にウェートを置く方針

< 参考資料 >



過去5年間の業績と主要データ推移

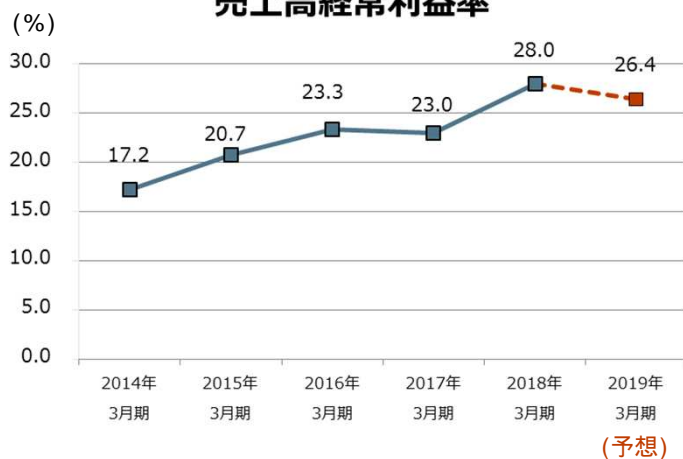
(百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売上高	6,418	7,402	8,382	8,825	9,767
営業利益(率)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)	2,695 (27.6%)
経常利益(率)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)	2,733 (28.0%)
当期純利益(率)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)	1,903 (19.5%)
有利子負債額					
純資産額	7,680	8,480	9,569	10,666	12,002
総資産額	9,075	10,339	11,371	12,517	14,467
自己資本比率	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%	83.0%
設備投資額	469	612	1,295	774	663
減価償却費	534	474	505	632	625
1株当たり配当金	15円	20円	25円	40円	45円
従業員数	284人	281人	280人	322人	338人

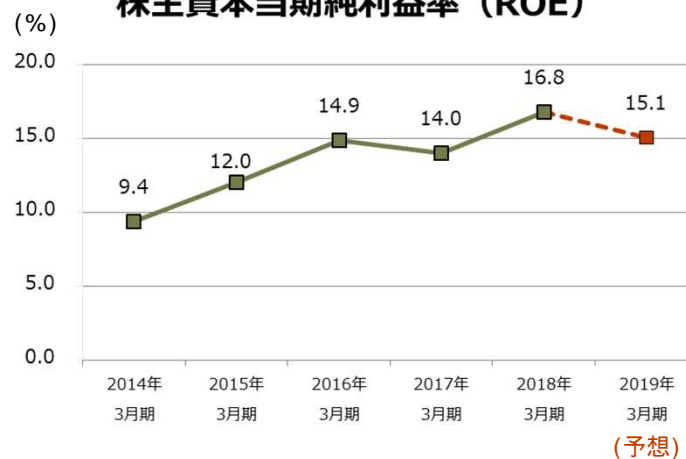
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています
2017年3月期の従業員数の増加は、非連結子会社の連結子会社への統合の影響

投資指標

売上高経常利益率



株主資本当期純利益率 (ROE)



1株当たり当期純利益 (EPS)



株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)

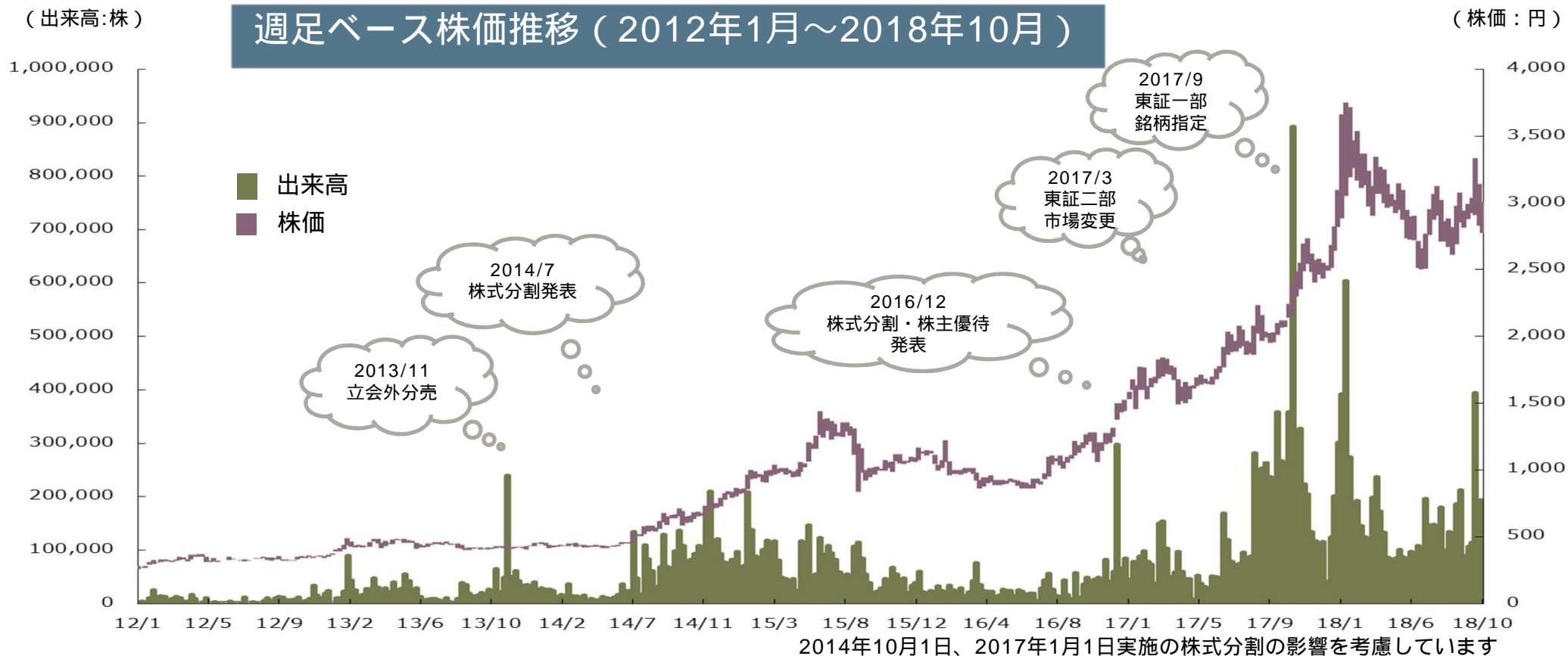


時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション



バリュエーション (2018年10月25日現在)

売買単位：100株

単元株価格： 25万3,200円

時価総額：316億円

P E R (19/3期予想)：16.58倍

R O E (18/3期実績)：16.8%

P B R (18/3期実績)： 2.64倍

IR情報サイトのご案内

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員経営企画室長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL : 03-3763-5672
FAX : 03-3764-8225
E-mail : ir@ns-tool.com

2018年11月26日以降は下記番号に変更となります

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。